



# 広島湾エコミーティング

～みんなで作ろう！広島湾のエコプラン～

## <開催報告>

### 1. 開催の目的

広島湾は古くから海の幸に恵まれ、現在でも、広島湾の豊かな恵みを受けています。しかしながら、豊かな生き物を育む干潟や藻場の減少や漂流・漂着ごみの問題など、かつての水環境から大きく変化しているのが現状です。このような背景を踏まえ、**広島湾の水環境の再生について市民の関心を高め、多様な主体の連携・協働による水環境の再生について考えることを目的に、「広島湾エコミーティング」を開催しました。**

「広島湾エコミーティング」では、**広島港～江田島湾を巡るクルーズ**と、広島湾の**海水・海底の簡易分析**を参加者に体験していただき、その結果から広島湾の「**エコ診断**」を行いました。また、**宮島水族館 塚本館長**によるご講演と、**企業やNPOの方々による活動報告**をいただいた後、参加者と一緒に、広島湾の水環境の課題解決に向けた「**広島湾のエコプラン**」づくりを行いました。

### 2. 開催概要

開催日：平成24年10月21日（日）10:00～17:00

会場：広島港宇品旅客ターミナル 2F イベントホール

※当初9月30日(第1回)と10月21日(第2回)の2回開催を予定していたが、9月30日は台風接近により中止となったため、10月21日に第1回のプログラムをあわせて実施。

#### 午前の部 (10:00～12:00)

##### ○エコ診断クルーズ (クルーズルート)

広島港（水辺調査）～中町港下船（水辺調査）～広島総研造成アマモ場見学（船上）～広島港（内容）

- ・船上で、広島湾に関する解説を実施。
- ・水辺調査では、参加者が透明度測定、採水体験、パックテストの体験とチェックシートを使った広島湾の水環境を診断。



エコ診断クルーズ ルート



クルーズ船(宇根丸)

#### 午後の部 (12:50～17:00)

##### ○講演「水族館展示生物から瀬戸内海の生物へ」

宮島水族館館長 塚本 博一 氏

##### ○広島湾エコ診断

- ①海水、海底泥の簡易分析体験
- ②広島湾の水環境に関する解説

コーディネーター：広島大学大学院生物圏科学研究科 山本 民次教授

##### ○活動報告

- ①(株) エネルギア・エコ・マテリア 「海底をきれいにする取り組みについて」
- ②NPO法人自然環境ネットワークSAREN 「広島湾の美しい自然風景とそれを守る取り組みについて」
- ③NPO法人ゆあーず「食」未来研究所 「企業や地域との協働による環境保全活動について」

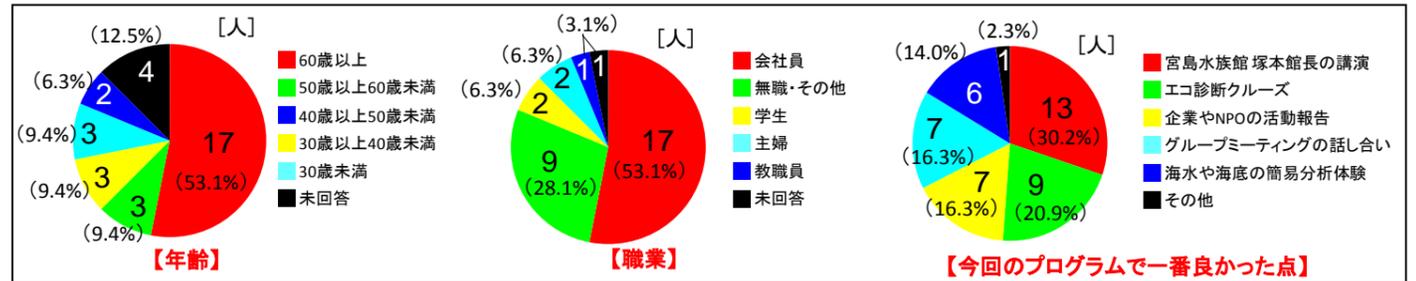
##### ○広島湾エコプランづくり (グループミーティング)

##### ○グループミーティング結果の発表

○総括 広島大学大学院生物圏科学研究科 山本 民次教授

### 3. 参加者

広島湾エコミーティングには、**主に広島市より32名（男性28名、女性4名）の方にご参加いただきました。**年齢層は60歳以上の方が約半数、職業は会社員の方が約半数ですが、その他様々な立場、年齢層の方にもご参加いただきました。また、今回のプログラムでは、宮島水族館 塚本館長の講演、次いでエコ診断クルーズが良かったとの回答をいただきました。



### 4. 開催結果

#### 広島湾エコ診断

##### <エコ診断クルーズ>

エコ診断クルーズでは、参加者に透明度板を使った**透明度の測定**と、**採水器を使った海水の採水、パックテスト**（簡易水質測定器具）を使った海水の**COD**（化学的酸素要求量）の分析を体験していただきました。また、クルーズ中は広島港、中町港、江田島湾（造成アマモ場付近）において、**エコ診断チェックシート**を使い、海水の色・臭い、海辺への近づきやすさ、海岸線の状態、海ごみの状態などを参加者に診断していただきました。



海水の採水体験(中町港)



透明度測定体験(江田島湾) エコ診断クルーズの様子

##### <広島湾エコ診断>

スタッフが広島湾で事前採取した海水と海底の泥を使って、参加者にパックテストによる分析体験を行っていただきました。



参加者による、海水と海底の簡易分析体験

その後、広島大学 山本民次教授より、広島湾の水環境の現状と参加者によるエコ診断結果について解説していただきました。山本教授からは、午前中のクルーズでの参加者によるエコ診断結果と、分析体験の結果について、**クルーズで参加者が診断した海水の状態があまり良くないにもかかわらず、実際に分析してみると意外にきれいであること**などのコメントをいただきました。



広島大学 山本民次教授による広島湾の水環境の現状の解説と、簡易分析結果に対するコメント

広島湾エコ診断の様子

講演

「水族館展示生物から瀬戸内海の生物へ」 宮島水族館 館長 塚本 博一氏  
～珍しい生物を展示するだけでなく、これからは海を守る取り組みや情報発信が必要～

宮島水族館館長 塚本 博一氏からは、宮島水族館の役割と展示コンセプトについて講演を頂きました。世界でここにしか展示されていないカキ筏水槽や展示されている生物の特徴などを、ユーモアを交えながらご紹介いただくとともに、これからの水族館は、生物を展示するだけでなく、海を守る取り組みもしていかなければならないことや、最先端の知識を情報発信していくことが重要であること、また、今後も瀬戸内海の生物を中心に展示と情報発信を行っていききたいとのお話をいただきました。



講演の様子 魚の縦縞と横縞の定義は？  
宮島水族館館長 塚本 博一氏の講演

活動報告

「海底をきれいにする取り組みについて」 (株) エネルギア・エコ・マテリア 樋野 和俊氏  
～リサイクル材を用いた海底の環境の改善について～

(株) エネルギア・エコ・マテリアの樋野氏からは、石炭灰造粒物<sup>注</sup>を用いて海底のヘドロを改善する技術について紹介いただきました。石炭灰造粒物にはヘドロ内の硫化物やリンなどを吸着する効果等があるため、海田湾や江田島市切串のヘドロが改善されたことや、宇品でアマモ場を創出できたことなど、広島湾内外での改善事例について報告いただきました。

注) 火力発電所で発生する石炭灰を固めて粒状にしたリサイクル材



宇品で創出されたアマモ場 アマモ場に定着したナマコ 樋野氏の報告

「広島湾の美しい自然風景とそれを守る取り組みについて」 NPO 法人自然環境ネットワーク SAREN 脇山 功氏  
～空撮による広島湾の風景、深刻な漂着ゴミの状況とその改善活動について～

写真家でもある NPO 法人自然環境ネットワーク SAREN の脇山氏からは、普段なかなか見ることが出来ない広島湾の空からの風景などの美しい写真をご紹介いただきました。しかし、我々の目が届きにくい無人島などでは、漂着ゴミが深刻な問題となっているため、漁業者などと連携して清掃活動に取り組んでいる事例と苦労する点について報告いただきました。



脇山氏の報告

「企業や地域との協働による環境保全活動について」 NPO 法人ゆあーず「食」未来研究所 野本 利夫氏  
～企業CSR活動としての環境保全活動の実施状況について～

NPO 法人ゆあーず「食」未来研究所 野本氏からは、食の安全・安心に加え環境にやさしいことを条件とした食品の優良品認定制度や、森林保全や海岸清掃などの環境保全活動について報告いただきました。宮島の清掃活動では、社員の自主的な活動として行っていたものを、より大人数できれいにするため、「みやじまゴミゼロウォーク」に協力し、毎年最後のごみの分別まで実施していることなどを報告いただきました。



野本氏の報告

広島湾エコプランづくり

各班のグループミーティングでは、参加者自らが体験したエコ診断結果や活動報告を踏まえ、広島湾の水環境の問題点と解決策(やるべきこと)、将来目指す姿について話し合いを行い、参加者からは、色んな解決策のアイデアが出されました。



グループミーティングの様子



発表の様子

グループミーティングの結果

- 【課題】
- <環境・水質> 水質に関する基準がわかりづらい、数値がどうなればよいのかわからない。
  - <環境・水質> 目に見えない海底の底質の悪化。(市民が現状を知らない)
  - <環境・ごみ> 見えない場所への漂着ごみがたくさんある。(市民が現状を知らない)
  - <関心・啓発> 護岸整備などにより、人が海に近づく場所が失われ海に近づけないため、海への関心が低い。

- 【目指すべき姿】
- <環境・水質> 水のきれいさだけでなく、生き物にとってすみやすい広島湾にしたい。
  - <環境・ごみ> 広島湾からごみを完全になくした。(発生量を減らす)
  - <関心・啓発> 豊かで人々が親しめる場所があり、人と自然が共存できる環境を目指したい。
  - <関心・啓発> 市民が海を大事にする社会を目指す。(みんなが海のことを知っている。小学生から COD の値が返ってくるような)

【やるべきこと】

項目	内容	目標・対策	役割分担
環境	水質、生物	<ul style="list-style-type: none"> <li>COD などの基準は実感がわからない。市民にわかりやすい基準にする。(ただきれいな海でなく、豊かな、生物が生息しやすい目安等を基準にする。)</li> <li>安全・安心と環境が調和した海岸の整備と管理</li> <li>やっかいもののアオサを活用(食品化や薬品化)する技術開発を行う。</li> <li>アマモ育成など、整備された環境を里海として人が積極的にバックアップする。</li> <li>生き物がすめるように、広い範囲の貧酸素を改善する技術を開発する。</li> </ul>	(行政・大学)  (行政) (企業・行政・大学) (企業・市民・行政・NPO・漁業者) (企業・行政・大学)
	ごみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>漁具等のごみが多く見られるので、漁業者への教育を義務化する。</li> <li>生活ごみを減らすために、若い人の教育から変えていく。</li> </ul>	(行政・漁業者) (学校・市民・行政・NPO・企業)
関心	広報、啓発など	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災との折り合いを考えつつ、護岸を工夫し人が海に近づく場所をつくる。</li> <li>広島湾の良いところと悪いところを巡るエコツアーなどを企画し、市民にもっと現状を知ってもらう機会を設ける。</li> <li>海への関心を持ってもらうため、広島湾の環境教育を小学校の義務教育に盛り込む。</li> <li>テレビの"DASH 海岸"のような企画を行い、気軽に観察できる場所をつくる。</li> <li>企業、行政、NPO、漁業者を巻き込んだイベントやシンポジウムを開催する。</li> <li>大人だけではなく、将来を担う子供達を交えた異世代の交流の場をつくる。</li> </ul>	(行政) (企業)  (行政・学校・企業)  (行政) (企業・市民・行政・NPO・漁業者) (学校・市民・行政・NPO・企業)

総括

広島大学大学院生物圏科学研究科 山本民次 教授  
～水環境の再生に向けて、市民の関心の向上と市民からのボトムアップが重要～

最後に、広島大学 山本民次教授より、広島湾エコミーティングを総括していただきました。

これからは、広島湾に関心が無い人にどのように関心を持ってもらうかが課題であること、環境の問題は常に意見の相違があるので、今後は色々な意見があることを承知で、住民の意見を聞きながら、急がずに解決していくことが必要であること、そのために行政のトップダウンではなく、市民からのボトムアップが重要であるとのコメントをいただきました。



広島大学 山本民次教授による総括

## 5. 広島湾のエコプラン（とりまとめ結果）

     …ソフト面での取り組み   
      …ハード面での取り組み   
 (短期) …比較的短期間で実現可能性が高い取り組み   
 (長期) …実現までに時間がかかると考えられる取り組み

広島湾の水環境の問題点	将来目指す姿	やるべきこと		
		市民・NPO など	企業、漁業関係	行政、教育・研究機関
<b>ごみ</b> ○かき関係のごみが多い。 ○砂浜に漂着ごみ（ペットボトルなどの消費者のごみ、発泡スチロール、漁具などの事業者のごみ）が多い。 ○河川からのごみが多い。 ○河川からのごみと海からのごみが混在。 ○河川敷の活用は行政が推進しているが、ごみのことはあまり言っていないのでは。 ○ごみを誰が処分するのか、責任の所在がどうなっているのかよくわからない。 ○見えないところにたくさんごみがある。 ○海底のごみの状況→誰にも見えない。	○広島湾から、ごみを完全に無くす。	(短期) まず、ごみがどうなっているかの現状を知ることから始める。  (短期) 学校などで子供のときから広島湾やごみに関する教育を充実させる。(看板を立てて啓発しても意識していない大人には響かない。小さいときからの教育が重要)	連携・協働	(短期) まず、ごみがどうなっているかの現状を知ることから始める。  (短期) 漁業権を更新する際に、ごみ処理に関する義務化や啓発を行う。  (短期) 空き缶のように集めたペットボトルがお金になるような仕組みづくり。(お金になれば捨てない)  (短期) 河川からのごみ→河川に網を張って海に出ないようにする。
<b>水質・底質・生物</b> ○そもそも海の色を沖縄と比べると間違って(→きれいな海のイメージが固定されている)。 ○水質・底質・生物がどのようになればよいかの基準がよくわからない。(CODが変わったと言われてもよく分からない。そもそも何をもちよとするのが分からない)。 ・藻場の育成で何がよくなるのか？ ・干潟に生き物が増えた(生物多様性の向上)→しかし気付いていない。 ○水のきれいさを数値で評価してもわかりにくい。 ○広島湾の水環境の実態を知らないことが問題である。 ○海水、海底直上水の水環境が悪い。 ○貧酸素水域がある(江田島湾など)。 ○20~30年前は秋の夕日の頃タチウオ釣りができたが、現在は魚が少なくなっている。 ○思ったより魚が少ない(アマモ場付近)。 ○広島港で小さいクラゲが多い。  ○これまで環境保全・再生のための取り組みが行われてきたが効果が出ていない。行政、企業、市民が責任を持って取り組むことが重要。	○水のきれいさではなく、生き物にとってすみやすい広島湾にする。  …森(山)・川・都市、海が織りなす環境が広島湾の魅力であり、それを継承し人と海が共存できる環境を目指す。 …きれいなだけの海は意味が無く、生物(水産資源)が豊富で人々が多くの恩恵にあずかれる「豊かな海」を目指す。  ○小魚が多くすめる環境にする。  ○魚が豊かに獲れる(良好な釣り場)。	(短期) 河川などで行われている5段階の生物指標をもっと活用し、環境教育などでPRする。  (短期) 里海としての利用(海岸への積極的関与を増やす)…アマモの育成、魚礁など、整備された人工海浜などの環境を、積極的に人がバックアップする。	連携・協働	(短期) 河川などで行われている5段階の生物指標をもっと活用し、環境教育などでPRする。  (短期) 河川から出てくる栄養分と海の生き物の関係を調べる。  (短期) 場の整備だけではなく、山と海の繋がりを取り戻す取り組み(植樹活動や生活排水の削減など)を推進し、豊かな海の基盤を守る。  (長期) 経済活動と環境のバランスを考慮した環境基準づくり…「よい環境」をどう定義するか。  (長期) 水のきれいさではなく、生き物にとってすみやすいかどうかの基準をつくる。  (長期) 生き物がすめるように、江田島湾などの貧酸素を改善する。 企業…広い海底の酸素を増やす新たな技術開発(酸素供給装置など)。 行政…浅場でのアマモ場の造成(酸素の供給)。
○海にヘドロが多い。 ○河川の水量が減って、河川にヘドロが堆積している。 ○湾奥部、沿岸部の海底が汚れている。 ○生物的には、海底の底質環境が問題。底質がよくなれば生物が増えるのでは。 ○海田湾の海底上にアンモニア等が多い。	○ヘドロがない広島湾を目指す。	(短期) まず、ヘドロがどうなっているかの現状を知ることから始める。	連携・協働	(短期) まず、ヘドロがどうなっているかの現状を知ることから始める。  (短期) 海底にカキ殻を敷いてヘドロを浄化する(→海水がきれいになる)。
○大野町、宮島付近にアナアオサの異常発生が見られる(生活排水による富栄養化?)。 ○アオサが漂着したり枯れたら悪臭が発生。	○アオサを減らす。			(長期) 食品化や薬品化の研究など、活用方法を発見しアオサを減らす。

広島湾の水環境の問題点	将来目指す姿	やるべきこと		
		市民・NPO など	企業、漁業関係	行政、教育・研究機関
<b>水質・底質・生物</b> ○干潟、砂浜が少ない。 ○自然海浜が少ない。 ○人工海岸が多い（空隙が少ない）。 →護岸に生物が少ない（新しい埋立地の岸壁が旧態の構造のままである）。	○今ある自然を大切にする。 ○子や孫（次世代）へ環境を継承する。 ○干潟、砂浜の再生（野鳥の保護）。	<span style="background-color: #ccffcc; border: 1px solid black; padding: 5px;">(短期) ミヤジマトンボの生息地をもっと増やす。（ミヤジマトンボがすめる環境を整備する。）</span>	連携・協働	
			<span style="background-color: #ccffcc; border: 1px solid black; padding: 5px;">(短期) ミヤジマトンボの生息地をもっと増やす。（ミヤジマトンボがすめる環境を整備する。）</span>	
			<span style="background-color: #ccffcc; border: 1px solid black; padding: 5px;">(短期) 護岸へのカニパネルの設置など、生物がすめるような環境修復事業の実施。</span>	
			<span style="background-color: #ccffcc; border: 1px solid black; padding: 5px;">(長期) 安全・安心と環境が調和した海岸構造を構築していく…線的防護（堤防）から面的防護（浅場+堤防）へと移行していく。費用的な問題は、技術と制度の両面からクリアしていく。</span>	
				<span style="background-color: #ccffcc; border: 1px solid black; padding: 5px;">(長期) 航路浚渫で出てくる浚渫土を活用し、人工干潟や砂浜を造成する。</span>
<b>親水性</b> ○埋立地やアレイ・ポート施設が増えている。 ○直線状の人工海岸が多い。 ○昔、絵の島や江田島にあった海水浴場が、車でのアクセス向上によって無くなっている。 ○海岸で楽しむことが出来なくなっている。（水辺で海水に触れることが難しい） ○海水浴できる場所が少ない。 ○潜ったときの透明度が低い（ダイビングポイントが無い）。 ○貝類が少なく、潮干狩りが出来ない。 ○埋立地のフェンスの色が目立つ（目立たないような色にできないか？）。 ○特に広島港内の透明度が悪い。 ○宇品～似島付近まで10mくらい透明度が欲しい。	○豊かで人々が親しめる場所がたくさんある広島湾。 ○50年前の元宇品の海水浴場を取り戻したい。（50年前の透明度=10mに戻す） ○透明度の高い海にしたい（目標5m以上）。 ○家族で遊べる海岸（生物に親しめる、水に触れやすい）を目指す。 ○どこでも海水浴や潮干狩りができるようにする。 ○広島湾は大都市で人口も多いので、誰でもアクセスできる空間を多くする。			<span style="background-color: #ccffcc; border: 1px solid black; padding: 5px;">(短期) 小規模でよいので、人工的な砂浜を点在させる。</span>
				<span style="background-color: #ccffcc; border: 1px solid black; padding: 5px;">(短期) 広島市近郊に家族で安心して貝掘りできるような干潟を創出する。</span>
				<span style="background-color: #ccffcc; border: 1px solid black; padding: 5px;">(短期) 人工海浜を増やし、生物が生息でき、人々が親しめる場を増やす。</span>
				<span style="background-color: #ccffcc; border: 1px solid black; padding: 5px;">(短期) 美しい瀬戸内海を最大限に活用できる、近づきやすい海岸線の整備（江田島など）。</span>
		<span style="background-color: #ffffcc; border: 1px solid black; padding: 5px;">(長期) 海へのアクセス面など、時代に合った海への接し方ができるような在り方を考える。</span>		
<b>海への関心の向上</b> ○広島湾に人が目を向けるような、全体的なアピール、仕組みづくりが必要。（海だけでは×、森・川・海全体で考える） ○行政の立場によって、環境浄化活動が広く知らされていない（バラバラである）。 ○住民の目が集まることによって、環境等の改善に繋がるのではないか。	○みんなが海を大事にする社会を目指す。（みんなが海のことを知っていて、例えば小学生に聞いてもCODの値が答えられるような）	<span style="background-color: #ffffcc; border: 1px solid black; padding: 5px;">(短期) 大人だけが参加する環境保全方策の議論も煮詰まっている。将来を担う今の子供たちを交えて、将来の広島湾を考えることが重要。…異世代（幼稚園・小学生～高齢者）が参加する、フィールドを中心としたエコテーマ交流の場をつくることが重要。</span>		
		<span style="background-color: #ffffcc; border: 1px solid black; padding: 5px;">(短期) ただシンポジウムの回数を増やしても関心がある人しか来ない。漁業者、ボランティア団体、企業も巻き込んで、みんな関心を持った中でのシンポジウムやイベントを開催する。／ 色々な活動団体が横の連絡をとり、市民の関心を高めていく。</span>		
			<span style="background-color: #ffffcc; border: 1px solid black; padding: 5px;">(短期) 広島湾のいいところ、悪いところを体感できるような、回遊エコツアーを企画する。</span>	
			<span style="background-color: #ffffcc; border: 1px solid black; padding: 5px;">(短期) 広島湾のよいところ、わるいところをきちんと市民に示す。</span>	
			<span style="background-color: #ffffcc; border: 1px solid black; padding: 5px;">(短期) 戦前からある白岩灯台のようなシンボリックなものに焦点をあてた環境教育や、学校の授業の一環でヨットなど海に親しむ教育を実施する。</span>	
		<span style="background-color: #ccffcc; border: 1px solid black; padding: 5px;">(短期) TVの“DASH海岸”のように、覗き窓のようなものでいいから気軽に観察できる場所をつくる。</span>		
			<span style="background-color: #ccffcc; border: 1px solid black; padding: 5px;">(短期) 一般市民が関心を持てるように、                      ・人工海岸…少しずつ、時間がかかってもいいから、自由に入れる場所を増やして欲しい。                      ・市民が関心を持てるような広報活動の実施（事業の経過など、市民が海を身近に感じられる工夫）。</span>	
			<span style="background-color: #ccffcc; border: 1px solid black; padding: 5px;">(短期) 海に触れ合える、学習できるフィールドづくり、ふらっと見に行ける干潟などの整備。</span>	
		<span style="background-color: #ffffcc; border: 1px solid black; padding: 5px;">(長期) 小学校の段階で、義務教育の一部に環境などの授業を組み込む→コンサルの出前授業など、専門に長けた先生を育成する。</span>		

6. 参加者へのアンケート結果のまとめと今後の課題

広島湾エコミーティング参加者へのアンケート結果と、それに基づく対応策（案）

アンケート内容（抜粋）	アンケート結果	今後の対応策（案）															
広島湾エコミーティングの開催を知ったきっかけ		<table border="1"> <thead> <tr> <th>アンケート結果</th> <th>対応策（案）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知人からの紹介</td> <td>○市民・NPO等とのネットワークづくりの強化（ネットワークを通じた参加者の募集）</td> </tr> <tr> <td>新聞</td> <td>○広報誌等を通じた、イベント開催に関する効果的なPRの実施</td> </tr> <tr> <td>広島市の広報誌（広島市民と市政）を見て チラシ・ポスター</td> <td>○ホームページ（イベント情報発信ページ）の充実と利用 促進のためのPRの実施</td> </tr> <tr> <td>ホームページでの告知</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	アンケート結果	対応策（案）	知人からの紹介	○市民・NPO等とのネットワークづくりの強化（ネットワークを通じた参加者の募集）	新聞	○広報誌等を通じた、イベント開催に関する効果的なPRの実施	広島市の広報誌（広島市民と市政）を見て チラシ・ポスター	○ホームページ（イベント情報発信ページ）の充実と利用 促進のためのPRの実施	ホームページでの告知						
アンケート結果	対応策（案）																
知人からの紹介	○市民・NPO等とのネットワークづくりの強化（ネットワークを通じた参加者の募集）																
新聞	○広報誌等を通じた、イベント開催に関する効果的なPRの実施																
広島市の広報誌（広島市民と市政）を見て チラシ・ポスター	○ホームページ（イベント情報発信ページ）の充実と利用 促進のためのPRの実施																
ホームページでの告知																	
広島湾エコミーティングに参加した理由		<table border="1"> <thead> <tr> <th>アンケート結果</th> <th>対応策（案）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島湾の水環境に興味があったから</td> <td rowspan="2">○ワークショップなどのイベントやパネル展示などの広報イベント等を通じた、広島湾再生行動計画の効果的なPRの実施</td> </tr> <tr> <td>「広島湾再生行動計画」の取り組みに興味があったから</td> </tr> </tbody> </table>	アンケート結果	対応策（案）	広島湾の水環境に興味があったから	○ワークショップなどのイベントやパネル展示などの広報イベント等を通じた、広島湾再生行動計画の効果的なPRの実施	「広島湾再生行動計画」の取り組みに興味があったから										
アンケート結果	対応策（案）																
広島湾の水環境に興味があったから	○ワークショップなどのイベントやパネル展示などの広報イベント等を通じた、広島湾再生行動計画の効果的なPRの実施																
「広島湾再生行動計画」の取り組みに興味があったから																	
広島湾エコミーティングで一番良かった点		<table border="1"> <thead> <tr> <th>アンケート結果</th> <th>対応策（案）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>宮島水族館 塚本館長の講演</td> <td rowspan="2">○有識者による、市民の興味を引くような話題提供 ○体験型・体感型イベントの実施</td> </tr> <tr> <td>エコ診断クルーズ</td> </tr> <tr> <td>企業やNPOの活動報告</td> <td rowspan="2">○意見交換会、活動報告会など、企業やNPOの活動発表の場づくり</td> </tr> <tr> <td>グループミーティングの話し合い</td> </tr> <tr> <td>海水や海底の簡易分析体験</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	アンケート結果	対応策（案）	宮島水族館 塚本館長の講演	○有識者による、市民の興味を引くような話題提供 ○体験型・体感型イベントの実施	エコ診断クルーズ	企業やNPOの活動報告	○意見交換会、活動報告会など、企業やNPOの活動発表の場づくり	グループミーティングの話し合い	海水や海底の簡易分析体験		その他				
アンケート結果	対応策（案）																
宮島水族館 塚本館長の講演	○有識者による、市民の興味を引くような話題提供 ○体験型・体感型イベントの実施																
エコ診断クルーズ																	
企業やNPOの活動報告	○意見交換会、活動報告会など、企業やNPOの活動発表の場づくり																
グループミーティングの話し合い																	
海水や海底の簡易分析体験																	
その他																	
今後、広島湾の水環境の再生に向けて、どのような企画があれば参加したいか？		<table border="1"> <thead> <tr> <th>アンケート結果</th> <th>対応策（案）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島湾の水環境を体感できるイベント（クルーズや海辺のウォーキング等）</td> <td rowspan="2">○体験型・体感型イベントの実施（再掲） ○市民・NPO・企業等が連携した、環境学習や環境保全活動の実施</td> </tr> <tr> <td>干潟の生き物観察などの環境学習</td> </tr> <tr> <td>藻場をつくり育てるための活動</td> <td rowspan="2">○意見交換会、活動報告会など、企業やNPOの活動発表の場づくり（再掲）</td> </tr> <tr> <td>今回のような、広島湾の水環境について皆で考えるワークショップ</td> </tr> <tr> <td>広島湾の水環境の再生に関するシンポジウムやフォーラム、市民講座など</td> <td rowspan="2">○市民・NPO・企業等が連携した、ボランティア活動の実施</td> </tr> <tr> <td>海岸ごみなどの清掃活動</td> </tr> <tr> <td>森林保全などのボランティア活動</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	アンケート結果	対応策（案）	広島湾の水環境を体感できるイベント（クルーズや海辺のウォーキング等）	○体験型・体感型イベントの実施（再掲） ○市民・NPO・企業等が連携した、環境学習や環境保全活動の実施	干潟の生き物観察などの環境学習	藻場をつくり育てるための活動	○意見交換会、活動報告会など、企業やNPOの活動発表の場づくり（再掲）	今回のような、広島湾の水環境について皆で考えるワークショップ	広島湾の水環境の再生に関するシンポジウムやフォーラム、市民講座など	○市民・NPO・企業等が連携した、ボランティア活動の実施	海岸ごみなどの清掃活動	森林保全などのボランティア活動		その他	
アンケート結果	対応策（案）																
広島湾の水環境を体感できるイベント（クルーズや海辺のウォーキング等）	○体験型・体感型イベントの実施（再掲） ○市民・NPO・企業等が連携した、環境学習や環境保全活動の実施																
干潟の生き物観察などの環境学習																	
藻場をつくり育てるための活動	○意見交換会、活動報告会など、企業やNPOの活動発表の場づくり（再掲）																
今回のような、広島湾の水環境について皆で考えるワークショップ																	
広島湾の水環境の再生に関するシンポジウムやフォーラム、市民講座など	○市民・NPO・企業等が連携した、ボランティア活動の実施																
海岸ごみなどの清掃活動																	
森林保全などのボランティア活動																	
その他																	



今回の広島湾エコミーティングのような「体験型イベント」を継続開催していくためには、以下のような方策が必要であると考えられる。

- 市民・NPOとのネットワーク等とのネットワークづくりの強化（ネットワークを通じた参加者の募集）
- ホームページ（イベント情報発信ページ）の充実と利用促進のためのPRの実施
- 有識者による、市民の興味を引くような話題提供
- 意見交換会、活動報告会など、企業やNPOの活動発表の場づくり
- 市民・NPO・企業等が連携した、ボランティア活動の実施
- 広報誌等を通じた、イベント開催に関する効果的なPRの実施
- ワークショップなどのイベントやパネル展示などの広報イベントを通じた広島湾再生行動計画の効果的なPRの実施
- 体験型・体感型イベントの実施
- 市民・NPO・企業等が連携した、環境学習や環境保全活動の実施